

## 打出〈うちで〉の小槌〈こづち〉（芦屋市打出小槌町）

摂津〈せつつ〉の国兔原郡打出村〈うばらごうりうちでむら〉に隠里〈かくれさと〉という所があって、むかしここに長者〈ちょうじゃ〉（おかねもち）がすんでいました。ひとつの宝の槌〈つち〉をもっていて、この槌〈つち〉を打ちふると、ねがいごとが何んでも、思いどおりにかなうので、それはそれは大切な宝物でありました。

何でもこの小槌〈こづち〉は、もと芦屋の沖にすんでいた竜神〈りゅうじん〉が持っていたもので、竜が人に化身〈けしん〉して、聖武〈しょうむ〉天皇にけんじょうしたものと伝えられています。

芦屋の沖には、竜神がすみ、海中の魚たちが、この神をまつため、暗夜〈あんや〉に火をともし、里人が、この火を沖の竜灯といった伝説は、芦屋の里の七ふしぎのひとつとして、古くから伝わっています。

この竜神のもっていた小槌〈こづち〉が、どのようにして、打出の長者の手に移ったか、そのへんの由来〈ゆらい〉はわかりませんが、むかし都でつかえていた時、手柄を立て、朝廷からいただいたものだろうといわれており、その長者が、失脚〈しっきゃく〉して打出の里に、かくれていたと思われます。

この槌をうちふると、どんな思いごとでもかなうことは、むかしの本にも「住みよからん家や、面白〈おもしろ〉からん妻、男や、つかいよからん従者〈じゅうしゃ〉、馬牛、食物、衣類など、心にまかせて打ち出してあらむこそ。」…とあります。

打出の長者は、この槌をもっていたので、大へんぜいたくなくらしをしていました。打出の小槌という地名も、これから名づけられたといわれています。

いまでもしずかな夜半〈やはん〉に、地に耳をつけてじっときいていると、地下の遠くからかすかに、宴会〈えんかい〉のにぎやかさがきこえてきます。

また、この地でものをひろったら、かならずしあわせがやってくるといわれています。

ただひとつ困ったことには、「打出の小槌は宝なれども くやしきこと 一つあるなり そのゆえは 鐘〈かね〉の音だにきけば うち出したるもの ことごとく失〈しっ〉することなり。」と、いうことです。



山崎の宝寺は、打出の小槌をお祀〈まつ〉りしてあるので有名で大繁昌〈はんじょう〉しております。